

徒然想

今年は、「異常な春」と言われるほど寒暖の差が激しい春でした。皆様におかれましても、体調管理の難しい日々だったのではないのでしょうか。「100年に一度の異常気象」と言うメディアもあったようです。100年に一度の・・・というのは、耳にタコが出来るほど聞いてきたフレーズです。気象も景気も、どうやら100年ごとに異常がやってくるのが世の習わしなのでしょう。それゆえ、様々な異常へのリスク管理に対するニーズが高まっているのも事実です。私たちは、計測と言う分野でどんなリスクを管理できるだろうか、どのような情報があればお客様の不安を軽減できるだろうかと常に考え続けています。そうした事に100年先も取り組んでいたいと思う次第です。

TECHNICAL TOPICS KRCの技術情報はこちら

雨季の災害に対する技術紹介

今回ご紹介するのは、大雨などによる災害に対するシステムです。梅雨時期の防災対策として必要な情報をいち早く得られるシステムを導入し、早期対応に役立てる事を目的としています。弊社には様々なシステムがありますが、各現場に合わせたカスタマイズを行ない、使用状況に応じた最適なシステムを導入できるようサポートしています。今回は「土砂災害斜面防災監視システム」と「危険水位警報システム」をご紹介します。

「土砂災害斜面防災監視システム」は、土砂災害危険箇所の現場監視を行うため、雨量計や断線センサーなどの状況に応じたセンサーと、必要に応じて監視カメラや警報装置を設置します。それらの情報は、リアルタイムに確認することができ、通信機能を導入する事で現場に出向くことなく、迅速に確実なデータを取得することができ、早期対応の判断情報として有効に機能します。そして、これらの情報を基に、現場の状況を容易に把握することができるものです。

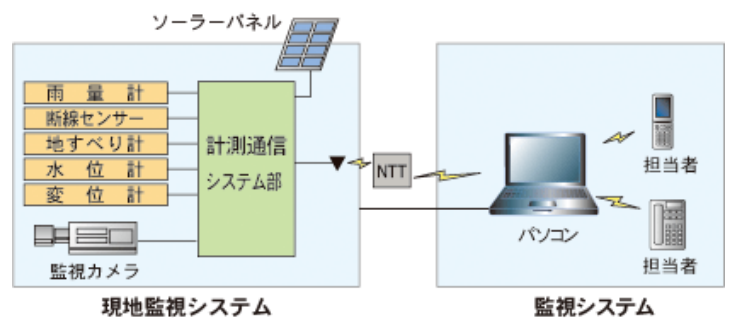
「危険水位警報システム」は、大雨などによる河川の危険水位を自動検知・通報するシステムで、小型・安価のため、小規模河川までを含めた広範囲の監視に適しています。水位の上昇は、水面自動検知センサーで段階的に検知し、危険水位に達したら、あらかじめ設定された通報先に通報します。

通報時には、バッテリー電源を使用する事で、停電時の対応も可能なシステムを構築できます。

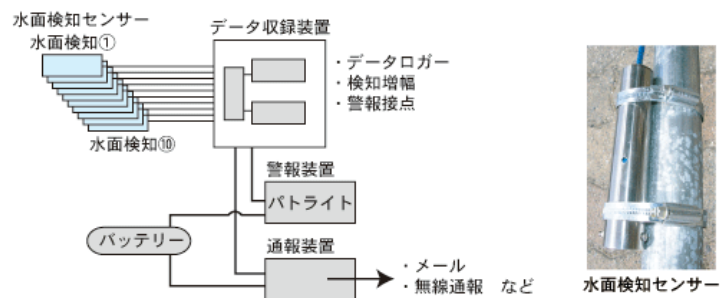
また、樋門の水位管理や砂防ダムにおける危険水位の自動検知通報にも適しています。弊社では、効率的かつ経済的な防災監視システムを開発してきた中で蓄えたノウハウもたくさんありますので、現場に合わせた総合的なサポートが可能です。

より詳しい情報をホームページでも紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

【[土砂災害斜面防災監視システム](#)】 【[危険水位警報システム「KRC-SSLS-II」](#)】



斜面防災監視システムの構成例



危険水位警報システムの構成例

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。